

建築物耐震診断判定通知書

交付番号 SKK判第 13020 号

交付年月日 平成 25 年 10 月 24 日

稚内市

稚内市長 工藤 広 様

株式会社 札幌工業検査

代表取締役社長 兼平 久



下記による申請について、判定しましたので通知します。

記

1	申請年月日	平成25年10月4日		
2	建築物の名称	稚内東小学校 校舎(15-1,15-2)		
3	建築物の所在地	稚内市潮見5丁目1番5号		
4	主要用途	小学校	5 階 数	地上 2 階 地下 階 塔屋 階
6	構造	鉄筋コンクリート造	7 軒 高	7.4 m
8	延べ面積	308 m ²		

建築物耐震診断判定・耐震改修計画評定委員会の判定

別添判定書のとおり妥当なものである。

株式会社 札幌工業検査 建築物耐震診断判定・耐震改修計画評定委員会

委員長 橋本 健一



SKK判第 13020 号

平成25年10月24日

耐震診断判定書

稚内市

稚内市長 工藤 広 様

株式会社 札幌工業検査

建築物耐震診断判定・耐震改修計画評定委員会

委員長 橋本 健一



平成25年10月4日 付耐震診断判定申込のあった建築物について、
次のとおり判定します。

記

1 耐震診断対象建築物

名 称	稚内東小学校 校舎(15-1,15-2)
所 在 地	稚内市潮見5丁目1番5号
構造・規模	鉄筋コンクリート造 地上 2階 ・ 308 m ²

2 審 査 結 果

耐震診断は適正におこなわれている。

以上

1. 建物の概要

様式-A

1-1 一般事項

(2013.7)

建物名称		稚内東小学校 校舎 (15-1, 15-2)			
建築場所		稚内市潮見5丁目1番5号			
用途		(竣工時) 小学校		(現状) 小学校	
設計者等	設計者	株式会社 久米建築事務所			
	監理者	不明			
	施工者	不明			
	診断者	株式会社 ドーコン			
建物規模	敷地面積	7128 m ²	建築面積	154.0 m ²	
	延べ面積	308.0 m ²	基準階面積	154.0 m ²	
	軒高	7.4 m	最高の高さ	7.9 m	
	基準階階高	3.4 m	地下階高	- m	
建物履歴	設計年	昭和48年 (1973年)		竣工年	昭和48年 (1973年)
	増築・改築	有 ・ 無		(履歴の内容) ・改修履歴 平成18年 アスベスト除去工事 ・地震履歴 (震度≧4) 竣工以降、該当する地震なし	
	補修・模様替	有 ・ 無			
	用途変更	有	無		
	火災	有	無		
	震災	有	無		
構造種別	鉄筋コンクリート造		構造形式	ラーメン構造	
階数	地上 2階 ・ 地下 -階 ・ 塔屋 -階				
基礎形式	独立基礎		地業 (直接、 <u>杭</u>)	地耐力 (杭支持力) 不明	
地盤	1種 ・ <u>2種</u> ・ 3種		敷地概況: 平坦地		
設計図書	既存図面等	意匠図 : 一般図 <u>有</u> ・ 無		詳細図 <u>有</u> ・ 無	
		構造図 : <u>有</u> ・ 無		構造計算書 : 有 ・ <u>無</u>	
		地質調査資料 : <u>有</u> ・ 無		(近隣資料 有 ・ 無)	
	添付図書	写真 (抜粋) ・ 意匠図 ・ 構造図 ・ 地質調査資料など			
仕上概要 (下地共)	屋根	露出アスファルト防水			
	外壁	コンクリート打ち放しの上マスチック仕上げ			
	天井	コンクリート打ち放しの上石綿吹付、化粧石膏ボード			
	内壁	モルタル+VP、シナベニヤ目透し+OP			
	床	Pタイル、長尺シート貼り			
その他	垂直積雪量	(設計時) 100 cm		(現状) 130 cm	
	煙突 ・ 鉄骨階段 ・ Ex. J. の <u>有無</u> ・ 突出物 ・ その他 ()				

1-2 診断結果一覧

様式-B

(2009.9)

建物名称 (棟名)		稚内東小学校 校舎 (15-1, 15-2)						
層重量 (kN)		1 階	2333	2 階	1853	階		階
単位重量 (kN/m ²)		1 階	16.6	2 階	13.2	階		階
柱・壁量 (c m ² /m ²)	X方向	1 階	309.6	2 階	309.6	階		階
	Y方向	1 階	318.6	2 階	318.6	階		階
耐震診断結果 (正・負加力で不利な数値を記入) 判定指標値 Iso= 0.56 C _{TU} ・S _D = 0.24								
方向	階	F	E ₀	S _D	T	I _S	C _{TU} ・S _D	判定
X方向 (張間方向)	2	2.25	1.821	0.93	0.920	1.558	0.75	OK
	1	2.25	1.223	0.93	0.920	1.046	0.50	OK
Y方向 (桁行方向)	2	1.00	2.448	0.93	0.920	2.094	2.27	OK
	1	1.00	1.373	0.93	0.920	1.174	1.27	OK
結果 (特性)	X方向	耐震上有効な壁はなく、耐力はすべて曲げ柱が負担している。柱は、すべて独立柱であるため、靱性が高くF=2.25で耐力が決定されている。 I _S 値、C _{TU} ・S _D ともに判定値を上回っており、「安全(想定する地震動に対して所要の耐震性を有している)」と判定される。						
	Y方向	無開口壁など耐震上有効な壁は多少あるが、耐力の過半は曲げ柱が支配している。壁配置は、シンメトリーに近く、比較的バランスが良い。 I _S 値、C _{TU} ・S _D ともに判定値を上回っており、「安全(想定する地震動に対して所要の耐震性を有している)」と判定される。						
地下階	なし							
PH階	なし							
その他の検討	大地震が発生した場合には液状化を生じる可能性はある。ただし、地表部分で液状化が起きた場合においても、杭が支持力を失う可能性は低いと考えられる。また、水平力が加わった際、杭が損傷した場合においても建物が崩壊するまでには至らないと考えられる。							
今後の 維持保全にあたって	かぶり厚さ不足による爆裂が多く確認された。そのため、鉄筋コンクリート躯体の劣化進行を未然に防止するため、また、少なくとも現状を維持するため、今後は継続的な調査を行い、コンクリートの爆裂(幅の大きなひび割れ含)や漏水等に対して補修をすることが必要である。							